

## 堀内先生を想う

前日本福祉大学学長 加藤 幸雄

1970年より少し前のこと、若くて張りのある先生が東京の大学からやってくるということが学生間で話題になっていた。噂に違わず、堀内先生には、はつらつとしたパワーを名古屋大学教育学部に注入していただいた。歯切れの良い、論理明快で、笑顔をたやさない人物像は、その後も変わらない。

学長になってまもなくの頃、私は、先生がリハビリをされている施設に、ご無理を言って伺わせていただいた。言葉が自由にならないからだで、私をじっと見つめ、私の言葉を一生懸命に理解しようとしておられた。奥様の久美子先生のお話では、内容はわかっていると思う、とのことだった。そうだとすると、ずいぶん歯がゆい思いをされていたのではないか。

長寿社会フォーラムの名ディレクターと言えば、堀内先生だ。著名なゲストを相手に、当意即妙かつユーモアにあふれた進行は、リピーターを増やし、先生のいないフォーラムは考えられなかった。先生が倒れられて、不肖私がおのれを引き継ぐことになり、先生のすごさを改めて思い知らされた。私としては、ゲストを理解し、関連することをかなり調べてその場に臨んだつもりであったが、進行は容易ではなかった。先生から言葉が失われたことを残念に思った。

堀内先生の知多総研所長時代、一番印象に残っていることは、先生が知多半島全域からの講演依頼に快く応じて、「歩く広報マン」だと言っておられたことだ。実にフットワークがいい。弁舌さわやかに、みなさんの「やる気」を刺激された。先生は、そのことを実に愉快地話されていた。

先生は、かねがね、知多半島は一つ、と言っておられた。平成の大合併にも積極的に動かれた。また、ロシアとの友好親善や大学間協定についても熱心で、よくお話を伺った。何事にも精力的だった。その神出鬼没、疾風怒濤のエネルギーが何に由来するのか、不思議に思ったものである。

私の中では、先生は、若いころから、「風の又三郎」だ。もの凄く存在感がある半面、どこか少し遠いところに実像があり、そこにはなかなか近づけない。身近で素敵な先輩であると同時に、なかなか手の届かない虚空が広がっていた。ひょっとしたら、先生は、虚空蔵菩薩なのかもしれない。

最後に、話術の天才らしい先生の名言を紹介する。「5・6人が早口でしゃべりあっている場に密着してみよう。一人が語り、他の者が耳を傾け、そのあとでまた別の者が語り、というようには進んでいない。一斉に話している。これは対話ではない。不安によって語られている独り語りの一斉放出に近い。」

(堀内 守先生)

堀内守先生は、1996年に名古屋大学を退官され、1997年度から2008年度までの間、日本福祉大学知多半島総合研究所所長を務められました。2013年7月に逝去されました(享年81歳)。

# 「何ぞはるかなる」「何ぞかくかなしき」

—青木美智男さんを悼む—

日本福祉大学知多半島総合研究所 所長 福岡 猛志

「おい、行くぞ」、愛知県史編纂の会議が終わると、青木さんから声がかかる。いわずと知れた居酒屋へのお誘いである。青木さんの学恩の圧倒的部分は、居酒屋で受けた。最後に別れたのも、居酒屋だった。「入れ歯がどうもうまく合わねえ」とぼやいていたけれども、僕が「なんだか背中が曲がってきているみたいだけど、大丈夫か？」と聞いたら、青木さんは、「ありがとう、ありがとう（なぜかこの言葉を2回言った。）、大丈夫だ。みんなあんまり言ってくれねえんだよな」と答えた。僕は入れ歯よりも背中を気にしていたのだ。小学館の『日本の歴史 別巻 日本文化の原型』の韓国語訳が出ることや、岩波新書で一茶を書くことは、すこし前から聞いていたが、「歴評（学会誌『歴史評論』）に俺のロングインタビューが載るからな」というのは、そのときはじめて聞いた。「俺の一茶は、これとは違うぞ」ということで、話題になったのが「露の世は露の世ながらさりながら」だなんて、なんという皮肉だろう。18 ページに及ぶ「青木節」を載せた「歴評」は、青木さんの訃報の後に届いた。

1000 万円という当時としては破格だった科学研究費のこと、大学移転の仕事のこと、痛恨のスキーバス事故のこと（僕はゼミ生を亡くした。急に白髪が目立つようになったと指摘してくれたのは、川田稔さん。青木さんは、教務部長だった。布団の中で泣いていたと、このたび奥様からお聞きした）、知多半島総合研究所の立ち上げとその成果のこと（斎藤善之・曲田浩和・高部淑子らの諸君によって深化されてきた「内海船・尾州廻船」研究の先鞭をつけたのは、青木さんである）、いよいよ「通史編」に取り掛かる愛知県史編纂事業のこと。文字通り語りつくせぬ青木さんとの日々があった。

ご冥福をお祈りするしかないことが、悲しくそして悔しい。与謝蕪村の詩に託して、青木さんを偲び、自分を励ましている。

君あしたに去ぬゆふべのころ千々に

何ぞはるかなる

君をおもふて岡のべに行つ遊ぶ

をかのべ何ぞかくかなしき

（美浜の雉子も、半田の雉子も、今は、ほろろとも鳴きません。）

（青木美智男先生）

青木美智男先生は、1975 年に日本福祉大学に赴任され、1988 年に日本福祉大学知多半島総合研究所を立ち上げ、1997 年まで同研究所の歴史・民俗部長を務められました。その後同研究所顧問となり、在任中の 2013 年 7 月に逝去されました（享年 76 歳）。

## 2012 年度知多半島総合研究所活動報告 2012 年 4 月～2013 年 3 月

### § 歴史・民俗部 §

#### ◎第 25 回歴史・民俗部研究集会

(2012 年 11 月 9 日／知多半島古窯巡見バスツアー)

(2012 年 11 月 10 日／愛知県常滑市民文化会館)

テーマ:シンポジウム「中世渥美・常滑焼をおって」  
基調報告 1:「東海の中世窯」

～研究の到達点と課題～

- (1)「渥美窯の展開」／安井俊則（田原市立田原中学校教諭）
- (2)「常滑窯の展開」／中野晴久（とこなめ陶の森資料館学芸員）
- (3)「施釉陶器の生産形態 ―瀬戸窯を中心に―」／藤澤良祐（愛知学院大学文学部教授）

基調報告 2:「消費地からの問題提起」

- (1)「東北地方の渥美と常滑」／八重樫忠郎（平泉町役場総務企画課）
- (2)「都市鎌倉における渥美・常滑焼の使われ方」／河野真知郎（鶴見大学文学部教授）

シンポジウム「中世渥美・常滑焼をおって」

〈コーディネーター〉福岡猛志（日本福祉大学知多半島総合研究所所長）

〈パネリスト〉安井俊則／中野晴久／藤澤良祐／八重樫忠郎／河野真知郎

#### ◎調査研究活動

- ・廻船文書調査（9 月・12 月・3 月）

#### ◎受託研究

- ・財団法人招鶴亭文庫／中埜家文書マイクロフィルムに係わる業務委託（高部淑子・曲田浩和）
- ・財団法人招鶴亭文庫／中埜家文書調査整理目録に係わる業務委託（高部淑子・曲田浩和）
- ・財団法人招鶴亭文庫／中埜家文書目録整備に係わる業務委託（高部淑子・曲田浩和・鈴木えりも・丸山美季）
- ・財団法人招鶴亭文庫／招鶴亭文庫活動支援に係わる業務委託（高部淑子・曲田浩和）

### § 地域・産業部 §

#### ◎受託事業

- ・「第 7 回はんだ山車まつり」経済効果測定調査業務委託（鈴木健司）

#### ◎交付金事業

- ・愛知県環境部／あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業（事務局）

#### ◎フォーラム

- ・知多半島生態系ネットワーク協議会・フォーラム（2013 年 1 月 18 日 日本福祉大学半田キャンパス 101 講義室）

テーマ:「こんぎつねと住める街を地域で考えよう」～生物多様性地域戦略策定に向けて～

#### ■知多半島生態系ネットワークの取組紹介

「知多半島生態系ネットワーク形成事業について」／岩木晃三（財団法人日本生態系協会）  
「企業の緑『命をつなぐプロジェクト』」／北村秀行（NPO 法人日本エコロジスト支援協会）  
「知多半島における学校ビオトープ現状と課題」／福田秀志（日本福祉大学健康科学部）

#### ■消費地からの問題提起

「(仮称) あいち生物多様性戦略 2020 について」／丹羽崇人（愛知県環境部自然環境課）  
「『人と生物』と『地域経済』の両立に向けた生物多様性地域戦略」／西田貴明（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社）  
「生物多様性おかげで戦略について」／鈴木稔（岡崎市環境部自然共生課自然保護班）

#### ■パネルディスカッション

コーディネーター 福田秀志（日本福祉大学健康科学部）

パネリスト 丹羽崇人（愛知県環境部自然環境課）  
西田貴明（三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社）  
鈴木 稔（岡崎市環境部自然共生課自然保護班）  
酒井 斉（豊田市環境部環境政策課）  
辻 雄亮（株式会社豊田自動織機 PE 環境部環境室企画 G）

### § 成果出版物 §

- ・「再発見！知多半島 みる きく あるく」(JA あいち知多広報誌「あぐりっ子」に毎月連載)

## 執筆者一覧（掲載順）

### 【特集 シンポジウム報告】

安井 俊則（田原市立田原中学校 教諭）  
中野 晴久（とこなめ陶の森資料館 学芸員）  
藤澤 良祐（愛知学院大学文学部 教授）  
八重樫忠郎（平泉町役場総務企画課）  
河野真知郎（鶴見大学文学部 教授）

### 【コラム】

福岡 猛志（日本福祉大学知多半島総合研究所 所長）  
加茂 浩靖（日本福祉大学経済学部 准教授）

### 【地域・産業】

遠藤 秀紀（日本福祉大学経済学部 准教授）  
鈴木 輝明（名城大学大学院総合学術研究科 特任教授）

### 【歴史・民俗】

曲田 浩和（日本福祉大学経済学部 教授）  
高部 淑子（日本福祉大学知多半島総合研究所 教授）  
鈴木えりも（日本福祉大学知多半島総合研究所 客員研究員）  
松下 孜（日本福祉大学子ども発達学部 助教）  
杉浦 和文（碧南市史資料調査員）

### 【追悼文】

加藤 幸雄（前日本福祉大学学長）  
福岡 猛志（日本福祉大学知多半島総合研究所 所長）

---

## 知多半島の歴史と現在 No.17

---

発行日 2013年10月31日

編集・発行 日本福祉大学知多半島総合研究所  
〒475-0012 愛知県半田市東生見町26-2  
TEL 0569(20)0112 FAX 0569(20)0128  
URL [www.n-fukushi.ac.jp/chitaken/](http://www.n-fukushi.ac.jp/chitaken/)

印刷 中埜総合印刷株式会社  
〒475-0876 愛知県半田市東天王町1丁目8番地  
TEL 0569(21)2426 FAX 0569(23)0772

---